

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立加納中学校
校長名 岩佐 優

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者や地域の方々が学校行事に参加する場を設ける。総合的な学習の時間の発表会・和太鼓発表会への参観、地域清掃での協働、いじめについて語る会で意見を交流等を通して、地域とともにある学校づくりを目指す。	B	総合的な学習の時間の発表会、和太鼓発表会など、生徒が学習の成果を発揮する場に多くの保護者が参加できた。また、資源回収や地域清掃、加中寺子屋においては、地域の方とともに活動し、「地域とともにある学校づくり」を進めることができた。	コロナ禍の状況に合わせて、これまで行ってきた学校行事等の実施方法を見直し、柔軟に最適な方法で進めている。それでいて、新たな地域との協働の取組も進めている。 今後は、さらに学校の活動に、地域の方も参加する機会を増やしていきたい。	コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者や地域の方々が学校行事に参加する場を設ける。生徒の発表会などを参観する場、地域清掃などで協働する場、いじめについて語る会などで参画する場を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指す。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	学びをつなぐ生徒の育成を目指し「教科横断的な視点に立った資質・能力」を育成する教科指導の実践を進める。その中で、各教科で担う役割を考えながら、その教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。	A	教科等横断的な視点をもって資質・能力の育成を図ることができた。「教科・領域関連表」の作成を通して、他教科の学習内容を理解するとともに、各教科で担う役割について考えることができた。その結果、学びを他教科や総合的な学習の時間に活用することができる生徒の姿が見られた。	授業では、協同学習において、男女分け隔てなく意欲的に意見交流をし、自分の考えを堂々ということができている。また、タブレットを活用して調べたり、表現したりして意見交流ができている。 今後は、 <u>学んだことを地域と連携・協働した教育活動</u> になるようにしていきたい。	学びに向かう生徒の主体性を育む教科指導の実践を進める。その中で各教科が担う役割を考えながら、その教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。また <u>地域と連携・協働した教育活動の実現</u> を目指す。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	中学校区で小中一貫教育を推進し、統一感を意識して取り組めるようにする。また、学力の向上、望ましい人間関係を築く力やレジリエンスの育成に関して、小中で連携できることを考える	A	小中連絡会を年に2回実施し、共通する指導が行えるよう統一感を意識して取り組めた。また、あいさつ活動など、小中連携を図る取り組みを実施した。 <u>小中9年間の発達段階や系統性を意識して取り組むことや、地域人材の活用の仕方</u> に課題が残る。	小学校と中学校が連携を図って、学習の取組を進めていることが授業の様子にも表れている。小学校と中学校で共通する学習取組を進めた。今後は、中学校において、発達段階に応じた発展的な内容を考えることよい。	岐阜市が推進する「ぎふMIRAI's」を受け、より <u>地域に根差したキャリア教育</u> を推進する。その中で、 <u>小中9年間の系統性を意識し、一貫性のある教育活動を展開</u> する。 また、地域で働く方や、卒業生にスポットを当て、 <u>地域人材を活用したキャリア教育</u> を推進する。
教育環境と学校財務環境の整備	ICT機器を活用することで、生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的な実践を明らかにして、その方法を生徒と共有する。 オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容の吟味検討を、地域人材の交流等も含め進めていく。	A	ICT機器を活用することについて、教師も生徒もその活用方法には慣れてきた。さらに、資質・能力の育成に有効かつ効果的な活用の仕方を模索していく必要がある。 総合的な学習の時間や、全校集会、オンライン授業等、オンラインで実施するのと、芸術鑑賞や出前講座など、対面でするものを吟味しながら教育活動を進めた。	全校集会や異学年との意見交流、講演会など、オンラインでの実施を日常的に行うことができた。また、新型コロナウイルス感染予防として、オンライン授業も行っている。 今後は、 <u>地域の人材との交流を同様の方法</u> で協力できるように考えていきたい。	ICT機器を活用することで、生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的な実践を明らかにして、より適した方法を生徒と共有する。 オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容の吟味検討し、 <u>ハイブリットに進めていく</u> 。また、地域人材の交流等も含め進めていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修(DIG)を実施するとともに、浸水害想定訓練を実施し、地域の方との連携を図る。 外部講師による情報モラルに関わる講演とともに、定期的にタブレットの適切な使用についての指導を進める。	B	防災教育については、外部講師を招聘し、3年生に防災教育(DIG)を実施した。また、学んだことを1、2年生にも広げるため、土曜教育活動にて実施した。 情報モラル教育については、外部講師を招聘できず、業者の教材DVDを活用し、 <u>情報主任・担任による情報モラル教室</u> を実施した。	災害時には、防災学習を生かして、中学生が地域の貢献することを期待している。浸水被害等の発生の可能性が高い災害から、具体的な想定で学習を進める必要がある。 SNSのトラブルの防止は、いじめの未然防止にもつながる。指導の徹底を進めるべきである。	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修(DIG)を実施するとともに、浸水害想定訓練を実施し、地域の方との連携を図る。 外部講師による情報モラルに関わる講演とともに、引き続き、定期的にタブレットの適切な使用についての指導を進める。

HPアドレス:

<https://gifu-city.schoolcms.net/kanou-j/>